

〔報告〕 4月22日 京都府京丹波町への申し入れ

京丹波町民へのアンケート結果等に基づき、乾式貯蔵などについて住民説明会等を要望

[京丹波町の回答]

- アンケート結果等は貴重な意見としてしっかり受け止める
- 敷地内乾式貯蔵の計画は注視する。国、関電の責任で説明すべき
- 住民説明会開催等の要望は内部で検討する

4月22日、京都府京丹波町へ申し入れを行いました。町の一部は、高浜原発から30km圏内に入ります。京丹波町民へのアンケート結果※1等に基づき、関西電力の原発敷地内乾式貯蔵、避難計画について住民への説明会の開催等を要望しました。市民は、京丹波町民1名はじめ、京都市から1名、大阪府から4名の6名が参加。町からは、総務課長、危機管理室長、危機管理室主事が対応しました。町役場本庁にて、11時20分から1時間強、町長宛の質問・要望書※2を提出し、回答を受け、やり取りしました。町は、敷地内乾式貯蔵の問題や住民説明会開催について、京丹波町だけで対応できる問題ではない等とし、明確な回答を避けました。しかし、要望をしっかり受け止めるとは何度も述べました。



※1 https://www.jca.apc.org/mihama/nuclear_waste/q_result_kyotamba20250422.pdf.pdf
※2 https://www.jca.apc.org/mihama/nuclear_waste/kyotamba_q_yobo20250422.pdf

◆敷地内乾式貯蔵の計画は「国や関電の責任で周知、説明すべき」

/ アンケート結果は「貴重な意見としてしっかり受け止める」

私たちは、京丹波町民へのアンケートで、8割が乾式貯蔵の計画を知らず、住民への説明が必要と回答したこと重視し、住民説明会を開催するよう求めました。町は、現段階で住民説明会を開く予定はないと答えました。しかし他方で、関電の乾式貯蔵の計画は、国や関電の責任で周知、説明すべきとしました。また、京丹波町だけでなく、他の自治体も含めて広域的に共有していく課題であり、当然注視していくべきものだと答えました。

住民が知ることは必要ではないかと尋ねると、広域的に対応していく問題だと回答。それならば、他の市町と一緒に、京都府に対し住民説明会の開催を求めているかと問うと、今後検討していくと答えました。

アンケート結果を尊重すべきではとの問いに、尊重するとは答えませんでした。しかし、「貴重な意見としてしっかり受け止める」とのことでした。2月の宮津市申し入れでは、市はアンケート結果を尊重する、関電は市民に説明すべきと答えています。綾部市は、住民説明会開催を求めると議会で答弁し、実際に府と関電に要望しています。私たちはこれらを踏まえ、京丹波町も、住民説明会開催を府に求めるよう訴えました。

◆「乾式貯蔵を問題にしないとは言っていない。意見はしっかり受け止める」

乾式貯蔵に反対や懸念を表明する要望について、町として趣旨は理解するが国全体で考えてもらう問題だと答えました。しかし、関電は貯蔵期間も搬出先も全く未定のまま計画を進めています。行き場のない核のゴミが増えていくことになり、周辺住民の安全に関わる問題です。このた

め、国任せでなく、町として問題にしていくべきではと問いました。町は、原発は安全性が最優先されるべきなので、問題にしないとは言っておらず、意見はしっかり受け止めると答えました。

◆篠山での安定ヨウ素剤事前配布の実現の経緯を知り「様々な対応の方法があるのが分かった」

私たちは、アンケートで複合災害時に避難等ができるとの回答が8%しかなかったこと等を踏まえ、少なくとも安定ヨウ素剤の事前配布が必要ではないかと問いました。町は、UPZ内の市町と同じような対応をしており、市町や府と相談しながら検討していく必要があると答えました。



京丹波町の市民は、隣の丹波篠山市で、学習会を通じて市民の意識が高まる中で事前配布が実現していった経緯を紹介し、これを参考にして、京丹波町も説明会を開催したらどうかと提案しました。

町は、「まさか篠山で、そのような意識の高まりがあったとは」と驚き、丹波篠山市のヨウ素剤の事前配布を初めて知ったようでした。その上で、具体的に何をするか答えるのは難しいが、様々な対策、対応の方法があることが分かり、貴重な意見としてしっかり受け止めると回答しました。

私たちは、能登半島地震を踏まえ、道路の寸断等が起こった状況で安定ヨウ素剤を行き渡らせるためにはどうするかという観点で事前配布を検討するよう求めました。

これに対し町は、能登半島地震以降、複合災害を考慮して避難経路の整備を進めていることを紹介しました。「府に強く要望して、UPZ内の府道舞鶴和知線の改良を進めてもらっている。町としても、上和知川の対岸で迂回路として林道開設を徐々に進めている。空輸等を含め、緊急時の物資支援についても民間団体と協定を結んでいる」。このような対策を進めているとした上で、これらに加えて、今回の要望も踏まえるとのことでした。

京丹波町の市民は、原発事故の避難訓練の際に乾式貯蔵に関する話も取り上げたらどうかと問いました。訓練の中で今回出してもらった様々な意見を反映できるか、検討しなければならないと述べました。

◆フランスからの返還廃棄物の受け入れ先がない問題も「注視していく」

フランスに搬出した使用済燃料の再処理で生ずる廃棄物の受け入れ先がない問題について、国家間レベルの話で、町独自で答えるべきことではないが、注視していくと答えました。

高浜原発の乾式貯蔵施設の安全性の問題については、技術的な懸念について町として答えるのは難しいとの対応でした。しかし、アンケート集めの際、急斜面の下に設置しようとしていることを写真を見せて説明すると、このような場所につくるのかと町民から驚きや不安の声があがっています。私たちはこのことを紹介し、町民から不安等の声が出ていることを関電や府に伝え、きちんと説明するよう求めてほしいと訴えました。

◆「今回の要望はしっかり受け止め、内部で相談する」

今回の申し入れを受け、関電の敷地内乾式貯蔵には問題があるとの印象を持ってもらったかを聞きました。町は、そこまでは分からないと答えました。分からない点等について府に聞いてはどうかと尋ねると、まずは今回の要望をしっかり受け止め、内部で相談する必要があると回答。内部で検討した結果については、知らせるべきことがあればお知らせするとのことでした。

最後に、関電の敷地内乾式貯蔵にぜひ懸念の声をあげるよう改めて求めました。